

仙台司教区 教区事務所だより



(第 3 号)

昭和 5 1 年 8 月 1 日

◎司祭評議会第一回会合

小林司教様の引退に伴い、司祭評議会は、自動的に解散されていたが、七月十二日、新司教のもとに、新しい顔ぶれで初の会合が開かれた。

新評議員は次の方々である。

土井文雄師(総代理)、斎藤石雄師、小野忠亮師(以上教区司祭団)ベルニエ師、フォーレ師(以上ケベック会)、ストッフエル師、ガイッセル師(以上ベトレヘム会)トラハン師、モリソン師(以上ドミニコ会)、ロベス師(グアダルペ会)佐々木博師、佐藤守也師(以上司教直任)。任期は三年である。

司祭評議会は、司牧評議会と並んで教区の重要な機関の一つである。同会の規則第三条には、この評議会

が教区全司祭の意思の疎通をはかりながら、教区のいろいろのことがらについて検討し、方策を探究して、教区長を補佐するものである、と述べられている。今回は第一回の会合でもあり、会の役割を再確認した後、広報活動、司祭研修会、神学生の召命と養成について、等の問題が議題として取りあげられた。

新しい司教のもとに、新しい一歩を踏み出した仙台司教区が、司祭の一致と協力を通して、新しい姿へのよみがえりが実現するよう、この評議会の健闘が期待されている。

なお、すべての司祭は、この司祭評議会を通して教区長と共同責任を持つように、教区民全信徒の教会行政参与の窓口には、司牧評議会がある。

四旬節 “愛の募金” 配分伝達

今年の四旬節に行なわれた愛の募金は全国集計で二六、〇〇二、七四五円に達した。この献金は、全国二十か所の施設に配分されたが、仙台司教区は、次の三か所の施設が、合計三九〇万円の配分をうけた。

(1) 萩の郷福寿苑(苑長島村泰三氏)二〇〇万円―ねたきり者輸送のためのライトバン購入のため。

(2) 暁生園(施設長川井啓師)一五〇万円―特別入浴装置のため。

(3) いずみ授産所(責任者三浦幸子氏)四〇万円―授産訓練用マシン購入。

七月五日、佐藤司教からそれぞれの責任者に配分金が伝達されたが、萩の郷福寿苑における伝達のスポットは、NHKテレビのローカル番組で放映された。

ちなみに、今年度、仙台司教区が愛の募金として献金した小教区からの献金の総額は七五万三千円弱で、配分受領額の約五分の一にしかならない。

愛の募金の配分を申請出来るのは必ずしもカトリック施設とは限らない。非キリスト者の経営になる施設であっても、定まった様式の申請書を整え、その地の主任司祭の推薦があれば、だれでも配分の申請をすることが出来る。

今年度の申請は、一応九半月ごろ、仙台司教区で審査され、その後、十月十八日の全国委員会に送られ、そこで来年度の配分先や額が決定される。配分金申請について詳細を知りたい方は、教区事務所、又はカリタス・ジャパン担当本間神父に、お問い合わせ下さい。



ミニ情報

●六月二十三日(宮城県カトリック幼稚園連盟研修会開催)

テーマは『これからの幼児教育』。講師 安斎 伸氏。場所 仙台市木ノ下、聖ウルスラ学院幼稚園。九三名が、八つの分科会に分かれて研修した。

●六月二十三日～二十四日(岩手県カトリック幼稚園研修会開催)

テーマは『感動』。

八十三名が、ツィゲル師の基調講話の後、四つのグループに分かれ、絵画、陶器：：などの実習を通して、膚で『感動』を経験し合った。

佐藤司教、ルカ管区長も出席した。(久慈教会プリント参照)

●六月二十七日(小林司教様への感謝ミサ)

聖ペトロを保護の聖人と仰ぐ司教座聖堂元寺小路教会で、同じ聖ペトロの霊名を頂く小林司教様への感謝のミサが、二十七日、佐藤司教と共に祝われた。

例年、小林司教様は、この祝日に司教ミサを祝っていたのであるが、退任後初めての祝日とあって、くりあげて日曜日に、感謝のミサが祝われたものである。

ちなみに、佐藤司教様の霊名はアウグスチノ。八月二十八日が祝日である。

●六月三十日～七月二日

日本カトリック児童収容施設協会全国大会が、仙台市宮城県労働福祉会館で行なわれた。北は北海

シスター

ブラモンドン・デニス

(無原罪聖母修道会会員)

会津若松無原罪聖母修道会のシスターデニスは、六月二十八日、四〇年の生がいを天の御父の御手に委ねた。燃ゆる宣教の熱情やみがたく、希望がかなえられて来日したのだったが、わずか十か月で、主の御もとに帰って行った。

略歴

一九三六年 カナダに生まる
一九五九年 修道会入会
一九七五年二月 終生誓願
一九七五年八月 来日
一九七六年六月二十八日 帰天
葬儀は六月三十日午後一時、会津若松教会においてイエズス会のマテ神父司式で行なわれ、三時、郡山カトリック墓地に埋葬された。同会が日本に来て以来、日本の土となる同会最初の会員である。
その奉献を心から感謝したい。



道から南は九州に至るまで、全国三四の児童施設を代表して六五名が集まった。元家庭裁判所判事・森田宗一氏を講師に招き、『子供を育てる心』のテーマの下に、カトリックの立場から、施設という特殊環境の上に立った子供の教育について、深い研修がなされた。

カリタス・ジャパン担当野口司教も、広島から来仙した。

これは、去る六月一日に開かれた女子修道会総長管区長全国大会に次いで、仙台教区で開かれた二度目の全国大会である。

●七月四日（仙台一本杉教会二十周年記念ミサ）

昭和三十一年七月十七日、豊屋町教会から別れて一本杉教会が誕生。……

◎八月の司教様の日程

（七月十日現在判明分）

- 八日 四国高松訪問。ドミニコ会士の司祭叙階金・銀祝の祝い
- 十二日 青森・聖母被昇天会誓願式
- 十六日 教区司祭団役員会
- 三十日 教区司祭団月例会

生してから、今年は二十年目に当たる。

七月四日、同教会の保護の聖人マリア・ゴレットイのお祝いをかねて、佐藤司教の司式による二十周年記念ミサが祝われた。

同教会の創立者でもあり、現在の主任司祭でもあるフォーレ師がカナダに帰国留守中とあって、正式のお祝いは二十五周年に祝うこととし、今年は、ささやかな記念ミサを祝うに止めたものである。

◎大湊教会再建募金のその後



昨年九月二十一日に、大湊教会が焼失し、その再建のために募金が呼びかけられていたが、教区内の沢山の方々から温かい心が寄せられた。現在大湊教会再建募金として集められた総額は、一八、九七九、九六三元に達している。これは、当初の目標額一千万円をはるかに越える金額である。内訳は、

献金 一〇、二七七、六二〇円

受取利息 二〇二、三四三元
火災保険 八、五〇〇、〇〇〇円

献金の内訳は、

教区事務所取り扱い分

五、六二四、八五八円

小教区 三、二一六、五八四円

修道院 九六三、〇〇〇円

学校 二六八、〇〇〇円

幼稚園 一四八、〇八〇円

施設 一三〇、〇〇〇円

個人 八九九、一九四円

大湊教会取り扱い分

四、六五二、七六二円

再建委員として深沢守三師、平田浩師、土井勝吾師、それに地元の、横島健二師が選ばれ、再建計画をねっていたが、この程ようやく設計図が出来上がり、八月末ごろ着工される運びとなった。

昨年の冬は、狭い仮聖堂、応急バラックで寒さをさげつつ、ひざつき合わせてミサをあげたが、今年の冬は、新装成った暖かい聖堂で一致の式をあげられるよう、冬に入る前に完成の予定である。

お互いの助け合いの実りの暖かさを味わいたい。

